

1984年度○フリーハンデ決定

1984年のフリーハンデは、美浦、栗東、

本部の9人のハンデキャッパーが討議の末

別表のように決定した。

出席者

●美浦トレーニングセンター
岩沢弘文、岡部龍文、渡辺駿六、滝澤勇
●栗東トレーニングセンター
柴田裕、岩片将士、甲佐勇、朝日真道
●本部審判部
小林 茂

三冠馬シンボリルドルフに 史上最高の評価で67キロ！ デシポイントを超えて、ジャパンC優勝のカツラギエ ースに66キロ。ミスターシービーは64キロ。

距離的ハンデを考慮したいが時期尚早

——最初に59年度の全般的な競馬についてのご意見をうかがいたい。

柴田 本年度から番組体系が整備されて、短中、長距離のレースが明確に区別された。短距離のレースでは春はハッピープログレス、秋はニホンピロウイナーの活躍が目立った。夏から4歳との混合レースが組まれているので、従来どおり古馬と4歳馬を分離して考えることは出来ないと思う。距離別の

格付けも検討してみてもどうだろう。

甲佐 短距離については、関西馬は揃っているが、関東馬はランクをつけるほど頭数が揃っていないのではないかと。岡部 ヨーロッパは距離の適性に見合った使い方をしてくるけど、日本ではまだそこまでしていない。

吉田 ハッピープログレスは短距離路線で活躍したがニホンピロウイナーは、二千馬までを準備範囲にしているし、

カツラギエースも二千馬から二千五百馬までこなしている。距離別のランクはまだ難しいような気がする。

岩片 分けるとしたら、ことがチャンスであることは確かだが、実際にはひと握りの馬しかランクに入っていない。

小林 短距離にG1競走ができたことを評価しながらフリーハンデを考えていった方が話が進めやすいと思う。短距離のG1を勝った馬を評価すれば、それなりの答は出てくるはずだ。ことは番組主導というが、重賞の体系が

※フリーハンデとは……

通常のレースのハンデキャップは、出走馬の実績、調子などさまざまな観点から負担重量を決定し、出走馬の「実力」を均等のものとしてレースを争わせようとするものです。

これに対して、フリーハンデは、その年度の競走馬の「格付け」をするものです。この「格付け」は単にその年度の各馬の実力比較にとどまらず、歴年の名馬の実力比較ともなります。ヨーロッパでは長いフリーハンデの歴史があり、年齢別のハンデだけでなく、距離別の全ヨーロッパのハンデがつくられています。これは生産界への指標ともなるもので、重要な意義をもっています。

本誌がフリーハンデを発表するように、なつて23年目。歴代名馬と比較して、昭和59年の優勝たちの実力は……!?

変わったが、生産者がそれに合わせて生産にかかるようになってから、距離別のランクをつけていった方がいいような気がする。

朝日 たまたまこしは、ハッピープログレス、ニホンビロウイナリーという短距離に強い馬が出た。ヨシノエデン、サーペンストールという特徴のある馬もいた。これらにはかなりの評価を与えたいが、今後果たして、そういった特徴を持つ馬が毎年現れてくるかという問題もある。

岡部 短距離のGIはそれほど大きな評価はできないような気がする。かつ

●4歳馬

無敗で三冠達成のシンボリルドルフは67歳で史上最高の評価

——まず、4歳馬の評価からはじめていただきたい。

柴田 昨年は19年ぶりの三冠馬・ミスターシービーを高く評価したわけだけども、こしはそれを超えるシンボリルドルフという馬が出てきた。これまで、ヨーロッパと比較すると日本の4歳馬の成長度は遅いと考えていたが、シンボリルドルフの体型を見ると完成品という感じがあった。8戦8勝で三冠馬になり、ジャパンカップで3着、有馬記念では横綱のような勝ち方を見せた。4歳時のミスターシービーと比較すると、数段上の評価を与えなければならぬ。スポーティングライフのフリーハンデを見ると、ジャパンカップ2着のベッドタイムが4番手の評価を受けている。イギリスのダービーを勝ったセクレトより高い評価だ。これはジャパンカップ競走が世界的に認められたことでありこの成績が評価されている

てタケシバオーという馬は、すべての距離をこなしたが、いまの体系に当てはめてみると、恐らく短距離のレースには使つてこないだろう。

滝沢 現在は番組主導型で、これから生産者をはじめ、厩舎関係者がこの体系についてくると思うので態勢が整った段階で距離別のランクを付けるべきで、いまは時期尚早という感じがする。岩片 同感だ。本当に定着してからでも遅くはないと思う。

柴田 それでは例年とおりの考え方で、作成することにしてしよう。

はずだし、4歳で3着にきたシンボリルドルフの強さもおおいに認められていい。

岩沢 4歳馬からは後じんを拝したことがなく、昨年の新馬戦を勝つて以来8連勝で無敗の三冠馬シンボリルドルフが誕生した訳ですが、これは同馬が年間を通じて健康に恵まれたのが、あの素晴らしい成績につながったと思う。菊花賞・ジャパンカップ・有馬記念という過酷と思われるようなローテーションをこなしたのもそのためだろう。

岡部 好位につけた競馬でもよし、中団よりうしろからいってよい。そしてゴール前では凄い脚を使う。大変な馬だ。こしは4歳勢はビゼンニシキ以下全体的にかなりレベルが高いと見ていた。正直なところ、馬の實力の伸びにハンデがついていけない感じがあった。ハンデをつけるのに圧迫感を感じ

じたほどだ。そのなかで傑出した存在だったシンボリルドルフは、今後二度と出てこない馬だと思ふ。フリーハンデをつけるにもおおいに迷う。

吉田 生産から競走に至るまで馬を中心とした考え方でいったシンボリルドルフをとりまく関係者の努力に敬意を表したい。ジャパンカップではブリーダーズカップを使つてきたマジエスティーズプリンスと同じレース間隔で臨みながら、マジエスティーズプリンスを抑えた。むこうは6歳、ルドルフは4歳ということを考えれば、世界的にもこの強さは認められるだろう。6戦目でダービーを制したローテーションも立派だ。

渡辺 非の打ちどころのない馬という一言だ。

岩片 従来のフリーハンデの評価でいくと、レースの内容、相手とのかね合いを物差しに置いたが、シンボリルドルフに限っては、従来の物差しとは違う感じがする。ダービーの向正面でや不安があったにしても、それ以外は安定した勝ち方をしているし、ジャパンカップで古馬と互角の勝負をして、有馬記念を圧勝。今後、このような馬が出ないとは断言できないにしても、これまでの馬をはるかに超える評価をしなければならぬ。

岡部 有馬記念ではカツラギエース一頭に狙いをしぼったレースをしていた。自在のレースが出来るのが強味だ。

柴田 カツラギエースも有馬記念では自分の能力を十二分に発揮している。それをあつさり抜き去ったのだから強い。

小林 3歳から10戦してきた競馬を見ると、初戦の新馬では、内にさきりながら結果は圧勝した。ダービーは3、4コーナーでステッキが入って一瞬は

つとしたが直線で一気に抜き去った。シンボリルドルフが本当に強いと思つたのはジャパンカップと有馬記念だ。ジャパンカップではカツラギエースが逃げ、ベッドタイムが好位につけていた。4コーナーではベッドタイムの外にシンボリルドルフがつけ、その外からマジエスティーズプリンスがきた。そのマジエスティーズプリンスを叩き合いの未破つたのだから強いという印象を受けた。有馬記念は完勝であり、この馬の強さは目方でどう評価するといふより、怪物という感じがする。外国馬の混じらないレースでは無敗ということも立派だ。

柴田 マジエスティーズプリンスは、アメリカのグラスホースではトップクラスの馬だ。これまでジャパンカップにきた馬のなかでは、最高の評価を与えてもいいと思う。その馬を抑え、有馬記念では同じ4歳馬のスズマツハが持ち味を充分に出しきった競馬をしたのに、問題にならなかった。

滝沢 シンボリルドルフの良さは、岡部騎手が悪いところがない馬だと話していたが、その言葉が的を射ていると思う。従来のレーティング方式では、シンザン、キタノカチドキが基準になつてきたが、今後はシンボリルドルフが基準になると思います。

朝日 8戦全勝で三冠を制し、従来の日本のローテーションの常識を破る使い方をしながらもジャパンカップで3着、有馬記念にも勝った。重馬場も苦にしないし、距離はオールマイティ。評価の基準をどのあたりに置くか。

柴田 この馬をとりまく環境がすばらしい。肉体と精神がフレッシュでできる環境にあつたと思う。具体的に67歳を試算的に持ってきたかどうか。4歳時のミスターシービーと比較して、最

1984年度●フリーハンデ決定

低2.差はあるのではない。

岡部 ジャパンカップと有馬記念がなくともミスターシービーより1.差は上だ。3.差があってもいいのではない。

甲佐 僕も67.に替成だ。

小林 昨年はミスターシービーが三冠馬で、この馬は強いとして65.をつけ

ビゼンニシキに60*、

スズマツハ、ゴールドウェイに58*

——シンボリドルフに続く二番手グループは

小林 春一連のクラシックを見ると、ビゼンニシキを評価しなければならぬ。

岡部 単独の二番手に置くべきだ。春のステップを見て、2月半ばから始まる3週おきの全ての重賞競走に出走して共同通信杯4歳ステークス、スプリングステークス、NHK杯に勝ち、2着に負けているが、ドルドルフを相手にした皐月賞でも見せ場を作っている。昨年のメジロモンスニーと比べて遜色はない。

岩沢 この4歳馬はシンボリドルフという傑出馬がいたため、不幸な巡り合わせになったといえるのではない。甲佐 4歳時のモンテプリンス、サンエイソロンというかつてトライアルホースと呼ばれた馬に61.がついている。ビゼンニシキはシンボリドルフの存在を考えれば、モンテプリンス、サンエイソロンと同じ評価でいいのではない。

柴田 モンテプリンス、サンエイソロンと比べると1.下ではないか。

岡部 ビゼンニシキに関しては距離の問題があるのではない。

渡辺 スプリングステークス、共同通信杯、NHK杯を評価すべきだ。昨年のメジロモンスニーが60.だが、あの

た。そのミスターシービーより、1.ではなくて2.上というところに、1.の重味が出てくると思う。67.は妥当だ。ミスターシービーとの2.差がこの馬の力を物語ることになる。

岡部 4歳馬は今後これ以上超えることはないはずだ。

馬より気持ちのうえでは、上だという感じをこめて60.に置く。

柴田 続くのはスズマツハ、スズパレード、ゴールドウェイ、ニシノライデンの4頭になる。スズパレードは結果的に以前のハワイアンイメージのようなコースをたどって、名より実をとっている感じがある。

岩沢 関東ではスズマツハだろう。ダービーでは一瞬シンボリドルフを脅かすところがあったし、有馬記念の内容も買いたい。

渡辺 ゴールドウェイは阪神大賞典がちょっと悪かったが、菊花賞2着で見せ場を作っている点を評価したい。この4頭のなかでは、スズマツハとゴールドウェイが上にいく。ビゼンニシキと2.差をつけて58.に並ぶ。

小林 その下に1.差でニシノライデンだ。スズパレードはニシノライデンと並べるわけにはいかない。ダービー4着は認められるが、ニシノライデンより1.下の56.だろう。

柴田 ダイゼンシルバーは多少気が悪いところがあるが、かなりの能力を持っている。ニッポースワローより上に置いて、スズパレードの56.に並べたい。

渡辺 関東ではメジロシートンがいる。これも56.だ。

滝沢 その次には、55.で当然ニッポ

1984年度○フリーハンデ決定

ースワローをあげなければならない。

朝日 西ではキタヤマザクラ。

滝沢 キタヤマザクラはシンザン記念を勝っているにせよ、ニュージューランドトロフィーでニッポースワローに負けている。ひとつ下ではないか。

柴田 これはシンボリドルフが強い。このレースでは強い。とくに京都コースの実績には抜群のものがある。55.でいいのではないか。

4歳牝馬は、ダイアナソロンと キクノペガサスを並べて58*

——4歳牝馬については関西馬が中心になるので、まず関西から話を進めてもらいたい。

柴田 ダイアナソロン、キョウワサンダー、トウカイローマン、キクノペガサス、ロンググレイザーの5頭の評価をまず決めたい。現状ではキクノペガサスにいちばん強さを感じるが、秋になって息切れたとはいえず、ダイアナソロンのクラシックにおける活躍を考えると、一緒に並べて考えるべきではないか。

吉田 現時点ではキクノペガサス、年間を通すとダイアナソロンという考え方ができる。

甲佐 キクノペガサスは7戦5勝、阪神牝特、愛知杯を勝っている。エリザベス女王杯も惜しい2着だった。一方のダイアナソロンも桜花賞を勝ち、オークスも負けて強しの印象を与えた。同じランクに見たい。

岩片 キクノペガサスの秋以降の強さは認めるとしても、ダイアナソロンのクラシックでの圧倒的に強いという印

岩沢 フジノフウウン、サクラトウコウと並べてハツノアモイ、オンワードカメルンは54.が妥当だろう。素質的にはサクラトウコウにかなり上ものを感じる。

岩片 マルブツサーペンは53.で、52.にエーコーフレンチ、アルファジェスではないか。

柴田 52.ではほかにトウホーカリ、メジロクレイバン、ハルマゲドン。

岡部 東ではフォスターソロン、ルミナスレイサー、それにホツカイペガサスが入る。これは牝馬とのかね合いを見てから決めたい。

象と、秋になっても安定した成績から1.の差を付けたらどうか。キクノペガサスは昨年のロンググレイスと同じ能力を持っていると考えられるかどうか。ただ、ジャパンカップのダイアナソロン、有馬記念のキョウワサンダーを見ると、牝馬のレベルを牝馬よりかなり下に見なければならぬ。

甲佐 昨年のダイナカール、シャダイソフィアと比較しても、ダイナカールには有馬記念4着の成績があるし、ここのメンバーは1.下に考えるべきだろう。

朝日 5頭のなかではダイアナソロンとキクノペガサスを上位にすべきだ。オークスとエリザベス女王杯の勝ち馬は若干評価が下がるのではない。

柴田 昨年のロンググレイス、ダイナカールが59.。さらにさかのばればテイタニヤ、リニアクインでも59.だった。ここから1.下の58.にキクノペガサスとダイアナソロン。キクノペガサスは愛知杯でニシノライデンと2.

'84年のフリーハンデ 4歳馬

67	シンボリルドルフ
60	ビゼンニシキ
58	⑤※キクノベガサス ゴールドウェイ スズマツハ ※ダイアナソロン ※トウカイローマン ⑤ニシノライデン
57	※キョウワサンダー スズバレード ダイゼンシルバー メジロシートン キタヤマザクラ
56	⑤市ニッポースワロー ※ロングレザー
55	オンワードカメルン ⑤サクラトウコウ ※ダイナシュガー ハツノアモイ フジノフウウン
54	アルファジェス ※ジムベルグ
53	⑤※ハッピーオールトン マルブツサーペン ※レイクビクトリア ※アイノフェザー ※ウメノフーリン エーコーフレンチ ※オンワードシエレル ※スイートソフィア ※タケムスメ ※ダドリアバンブー トウホーカムリ
52	⑤⑤※ドミナスローズ ⑤※ニットウタチバナ ハルマゲドン ※パワーシーダー ⑤※ファイアーダンサー フォスターソロン ⑤※ホツカイベガサス ミスタールマン メジロクレイバン ルーミナスレイサー ⑤※ロングキティ (計44頭)

※牝馬 ⑤父内国産馬 ⑤抽せん馬
⑤公営出身馬 ⑤市場取引馬

5歳以上 ジャパンカップ優勝を高く評価して、 カツラギエース66キ

古馬に移ってまいります。カツラギエースのジャパンカップ優勝という金星があり、この評価について、かなり意見が分かれると思うので、まずジャパンカップ優勝の意義についての意見をうかがいたい。

岡部 4回目にして初めて日本馬が勝った訳だがカツラギエースの春の一連

の成績、そして有馬記念の成績をふりかえって見ると、この馬がジャパンカップを勝っても不思議ではなかったと思う。ペースも見た目より速い、しっかりしたものであったからね。ただ外国馬には遠征という大きなハンデがあるのだから勝ったことは大いに評価するにしても有頂天には喜べない。

渡辺 シンボリルドルフは別として、ジャパンカップで日本馬が勝つパターンは、カツラギエースのように、逃げ馬の得意な展開、離して逃げ、道中息が入る展開にならないければ、これから難しいと思う。

滝沢 アサカシルバー、ダイセキテイ、ハヤテミグ、ホリスキー、ミナガワマシナという春に期待した馬が挫折して、秋にはミスターシービーの復活があったとはいえないものの、コンスタントに重賞路線を走り、しかもジャパンカップを勝ったカツラギエースのトップは間違いない。

朝日 関西でもエリモローラが日経新春杯のあと戦列を離れ、ハシローディも春の前半で活躍が終わった。秋になっても活躍したのはカツラギエースとスズカコパンの2頭だが、短距離路線におけるニホンピロウイナーと、ハッピープログレスの存在を高く評価したい。安田記念、マイルチャンピオンシップという短距離のGIに向けて、ハッピープログレス、ニホンピロウイナーが目標を定めた使い方をしたのは、来年度以降に向けて明るい展望が開けたといえるのではないか。

吉田 これは春前半降雪の影響はあ

ったが総体的に馬場コンディションがよかった。有馬記念を見ても、それだけの馬が十分力を出しきったレースだったし、年間を通して充実した年だったということがいえると思う。カツラギエースについては、有馬記念でもその力が証明されたし、単なる逃げ馬ではない。走ることと充実したという感じを受けた。

甲佐 カツラギエースとミスターシービーは昨年とことし、4度ずつ対戦して、昨年在ミスターシービーの3勝1敗。ことしはカツラギエースの3勝1敗という成績が残っている。4歳時のカツラギエースは、気性面からもモロサを感じたが、5歳になって成長した。カツラギエースのトップランクは当然のことだし、ミスターシービーも天皇賞を勝って、四冠を獲得したことになる。例年の馬と比べると高い評価を与えなければならぬ。ただ、4歳時と比較すると、もうひとつのものの足りなさを感じた。目に見えない疲れがあったのではないかという気がする。

岩片 年間を通してカツラギエースの活躍を評価すると同時に、距離の得意性を活かしたニホンピロウイナーとハッピープログレスを強調したい。

差あったといっても圧倒しているし、ダイアナソロンはクラシック路線を歩んできた成績を評価した。

甲佐 この2頭から1、下にトウカイローマンとキョウワサンダーか？

柴田 トウカイローマンはオークスを勝って桜花賞とエリザベス女王杯が4着、潜在能力を認めたい。トウカイローマンを57、キョウワサンダーは56、としたい。

朝日 55、にロングレザー。

渡辺 このあたりから、やっと関東馬が出てくる。ロングレザーが55、なら、1、下の54、にダイナシュガー、桜花

賞トライアルの勝ち馬だ。

岩沢 53、にジムベルグ、ハッピーオールトン、レイクビクトリア。

滝沢 関東では52、にアイノフェザー、ウメノフーリン、オンワードシエレル。

朝日 関西ではダドリアバンブー、ファイアーダンサー、ドミナスローズ、ロングキティ、それにパワーシーダー、岩沢 スイートソフィア、ニットウタチバナも入っている。タケムスメも52、か。

渡辺 牝馬の52、がこのあたりだと、牡馬からホツカイベガサスとミスタールマンを52、に加えない。

朝日 関西でもエリモローラが日経新春杯のあと戦列を離れ、ハシローディも春の前半で活躍が終わった。秋になっても活躍したのはカツラギエースとスズカコパンの2頭だが、短距離路線におけるニホンピロウイナーと、ハッピープログレスの存在を高く評価したい。安田記念、マイルチャンピオンシップという短距離のGIに向けて、ハッピープログレス、ニホンピロウイナーが目標を定めた使い方をしたのは、来年度以降に向けて明るい展望が開けたといえるのではないか。

吉田 これは春前半降雪の影響はあ

ったが総体的に馬場コンディションがよかった。有馬記念を見ても、それだけの馬が十分力を出しきったレースだったし、年間を通して充実した年だったということがいえると思う。カツラギエースについては、有馬記念でもその力が証明されたし、単なる逃げ馬ではない。走ることと充実したという感じを受けた。

甲佐 カツラギエースとミスターシービーは昨年とことし、4度ずつ対戦して、昨年在ミスターシービーの3勝1敗。ことしはカツラギエースの3勝1敗という成績が残っている。4歳時のカツラギエースは、気性面からもモロサを感じたが、5歳になって成長した。カツラギエースのトップランクは当然のことだし、ミスターシービーも天皇賞を勝って、四冠を獲得したことになる。例年の馬と比べると高い評価を与えなければならぬ。ただ、4歳時と比較すると、もうひとつのものの足りなさを感じた。目に見えない疲れがあったのではないかという気がする。

岩片 年間を通してカツラギエースの活躍を評価すると同時に、距離の得意性を活かしたニホンピロウイナーとハッピープログレスを強調したい。

柴田 カツラギエースのトップランクは当然だが、ミスターシービーとの比較で、どのあたりで折り合いをつけるかが問題。それと、ニホンピロウイナー、ハッピープログレスにローラーキングを含めた馬の比較がポイントになる。

岩沢 今年は重賞競走の格付、そして競走距離の整備がなされ、充実した番組の中で、各馬が自己に適したローテーションを組立てられたために、スピード馬、或はスタミナ馬など各クラスで数多くの活躍馬が誕生して、年間を通して素晴らしい競馬を見せてくれました。その中でもカツラギエースが、ジャパンカップ、宝塚記念など重賞競走で5勝を挙げ尚かつ最強が顔を揃えた有馬記念でも従来のレコードタイムを0・1秒縮めた2着と健闘し、同馬の年間を通しての活躍振りからも高い評価をしたい。

小林 ジャパンカップが4回目を迎えて、初めて日本の馬が勝ったわけだが、過去4回のレース展開を見てみると、1回目からサクラシンゲキ、カズシゲ、ハギノカムイオー、カツラギエースと、4レースとも日本馬がラップを作っている。5%の時計を見ると、57秒8、62秒3、58秒1、61秒1という数字が残っている。カズシゲは引きつての逃げでジョンヘンリー、オールアロングといったメンバーを相手に6着に残った。カツラギエースは、ウイン以下が深追いしなかったことがあるにせよ、マジステイーズプリンス、ウイン、ストロベリーロード、ベッドタイムという順調なローテーションを踏んできた馬たちに勝った。1%、12秒7という数字があるが、ここで息を入れて上がり35秒5というパーフェクトなレース運びだった。ジャパンカップはかなりの評価をしなければならない。

甲佐 過去三年をさかのぼると、アンバーシャダイが63%、モンテプリンスが64%、ホウヨウボーイが63%の評価になっている。この3頭はいずれもジャパンカップでは負けている。柴田 比較の対象に置くとしたらモンテプリンスではないか。甲佐 ジャパンカップはもちろんのことだが、有馬記念がカツラギエースの能力を出し切ったレースだと思う。二千五百メートルだけの競馬ができることは高く評価しなければならぬ。欲をいえば60%以上を負担して勝ったレースがあればよかった。ここで考えなければならぬのは、テンポイントとの比較ではないか。テンポイントは7戦6勝。1敗は宝塚記念でトウシヨウボーイに負けたものだ。あの年のフリーハンデが65%。カツラギエースはそれに並ぶのか、それとも超えるのか。柴田 テンポイントの時代とは、やや様相が異なるが、能力的には近い世代といえるのではないか。ことしの毎日王冠、天皇賞のレベルは高い。渡辺 確かに実績ではカツラギエースだが、ミスターシービーとそれほどの差は認められないと思う。両者の間に1%の差はつけられないのではないかとせめて%の差に置けないか。岡部 負けたレースのカツラギエースのモロサが気になる。小林 しかし、天皇賞では負けたにせよ、着順ほどの差はない。ジャパンカップは、昨年と比較すると、ことしの方が密度が濃い。昨年、スターラの2着にきたキョウエイプロミスが63%だから、カツラギエースについては、65%を中心に考えるべきではないか。渡辺 逃げ馬だけにモロサがあるし、テンポイントと並べられるか。長距離、重馬場実績がないし、総合的にはテ

1984年度○フリーハンデ決定

ンポイントより下か、並ぶくらいという気がする。

渡辺 ミスターシービーでも65%の評価はできないか。

岡部 ミスターシービーは64%だろう。柴田 ミスターシービーを64%。カツラギエースを66%と僕は考えた。テンポイントを超えてもいい。

岩沢 ジャパンカップを勝った実績を加味すると66%の線を考えてもいい。ジャパンカップの評価は人によって異なるかも知れないが、よどみのないベースで2分26秒3という時計も決して遜色はない。

岩片 ただ、カツラギエースの場合、かつてのタケシバオー、タニノチカラといった馬ほどの力強さは感じない。これまで、65%あるいは66%をつけた馬にはぶざまなレースというものがなかった。カツラギエースのモロサはちよつと気になる。

柴田 歴代の馬の比較と同時にミスターシービーとのかね合いもあるので、まずミスターシービーの評価を決めたい。吉田 ミスターシービーの64%には異論がない。渡辺 毎日王冠と天皇賞だけをとったら、ミスターシービーはむしろカツラギエースより2%上をいくだろう。だから、ジャパンカップ、有馬記念を考慮しても、カツラギエースがミスターシービーを2%超えるのは納得がいかない。

短距離の王者ニホンピロウイナーに62%
モンテファストに61%
それでは次のランクに話を進めていきたいと思います。

甲佐 春の天皇賞馬モンテファスト、短距離で活躍したニホンピロウイナー、

ない。どうつけても1%差だろう。カツラギエースは65%に置きたい。

岡部 カツラギエースが、ジャパンカップでシンボリドルフのようなレース運びで勝ったならば66%も当然だろうけど、65か66か非常に微妙だ。

柴田 65%か66%か難しいところだが、66%までもつけない理由をあげてみるとうなるか。

吉田 テンポイントとの比較がひとつ。それとミスターシービーを64%にするならばそこに2%差があるかということ。65%でも十分あの馬の評価をしている。

渡辺 天皇賞の5着がさびしい。66%となると、ジャパンカップの金星という心情的な面が入るのではないかと

思う。へ編集部注「カツラギエースについては、66%か65%かをめぐって、出席者の間で一時間余にわたる討論がかわされました。そのすべてを記載することができませんが、1%をめぐる慎重な討論を最後にまとめてもらいました」

柴田 カツラギエースは66%に決めた。これはジャパンカップの優勝を高く評価し、日本の競馬を海外に広く知らしめた功績を加味したものである。ベッドタイムが海外で高い評価を受けていることを考え合わせ、ジャパンカップの内容を重く見るを得ないことも強調しておきたい。

ハッピープログレスの比較になる。

柴田 まずモンテファストとニホンピロウイナーをとりあげなければならぬ。

'84年のフリーハンデ 5歳以上

66	④市	カツミ	ラタニ	ギシロ	エー	スビー
64	④父	ニホン	テフ	アブ	ウイ	ナー
62		モハ	テフ	ブ	スト	グ
61		テ	ユリ	スキ	ム	グ
60		ホ	サ	オ	イ	ス
59		サ	ズ	カ	バン	ス
58	④地	ハミ	ナガ	ワ	ディ	ナ
	④父	キ	ラ	エ	マン	グ
57	④地	キ	ト	ウ	レ	ア
		ハ	ミ	サ	バ	ス
56	④地	ロ	ア	サ	イ	ス
	※	エ	イ	モ	ロ	シ
55	※	ダ	イ	ナ	カ	ウ
54	④父	ア	ス	コ	ラ	イ
	※	ウ	イ	ン	ブ	ラ
	※	ダ	ス	ゲ	ニ	ソ
	※	ビ	マ	ゴ	ラ	ク
53	④父	ロ	バ	ア	モ	ク
	※	ア	レ	ア	モ	ン
	※	エ	リ	モ	イ	セ
	※	キ	ヨ	ウ	イ	セ
	※	サ	ク	ラ	シ	ボ
	※	サ	シ	ナ	ヨ	ン
	④父	ド	ウ	カ	マン	マ
52	④父	ヨ	シ	ノ	エ	デン
	※	ア	バン	ディ	ヤ	ル
	※	オ	ゴ	ン	タ	ケ
	※	カ	ネ	ク	ロ	ン
	※	カ	ル	ス	ト	ダン
	※	グ	ア	ッ	シュ	ア
	※	グ	ロ	ー	バル	ダ
	④地	サ	ー	ペン	ス	ン
	※	シュ	ウ	ザ	ン	グ
	※	ス	ー	パ	ス	ワ
	④父	タイ	ア	オ	バ	ド
	④父	ト	ワ	カ	チ	ド
	④父	プ	メ	イ	キ	ン
	④父	ホ	ク	ノ	タ	ロ
	④父	マ	ク	ノ	タ	ロ
	④父	ミ	ク	ノ	タ	ロ
	④父	メ	ジ	ノ	タ	ロ

(計56頭)

岡部 ニホンピロウイナーは60歳を背負って朝日チャレンジカップを勝った。二千二百まで守備範囲を広げているし、スワンステークスの勝ち方もいい。春の天皇賞のあと実績のないモンテファストより上に置きたい。62歳でどうか。小林 62歳でいい。しかし、モンテファストも天皇賞を勝ったことは評価したい。277のG1は春の天皇賞ひとつしかないし、いわば長距離の頂点といえるレースだ。61歳に置きたい。岩片 ハッピープログレスはニホンピロウイナーと2歳差を見なければならぬ。60歳だろう。柴田 次いでテデナムキング、ホリスキー、ちよつとさがつてローラーキングといことになるが、ローラーキングについては、ダートの重賞をどう見るかということが問題になる。岩沢 テデナムキングは中山記念、そして秋の天皇賞の2着は特筆すべきものの、59歳の評価が当然だろう。滝沢 ホリスキーは故障がちで、実績がいまひとつだが、春の天皇賞を勝つてしかるべき馬であつたと思うし、あのレースが3着であつたにせよ、59歳で並べたい。甲佐 サンオーイは札幌記念の内容と、

安田記念3着はさすがと思わせたが、やはり芝のレースでは食い足りないところがある。決め手がいまひとつという感じがあるし、ダート馬に対する評価にもよるが、58歳に置きたい。吉田 ローラーキングも58歳。函館記念3着とよく走った。柴田 ローラーキングは道悪でニホンピロウイナーにも勝っている。それとスズカコバンを並べて58歳。ハシローデューも加えていい。ミサキネバアーは1歳下。西は牝馬が粒揃いの感じだが、東のスクラムダイナを高く評価して55歳。では3歳馬の評価に移りたい。柴田 関西は牝馬に粒が揃っている感じがするが、牡馬の傑出した存在がない。関東に比べると一歩さがつて見なければならぬ。例年と比較しても55歳の評価を与えられる馬が関西にはいない。渡辺 確かに素質馬は関東に揃っている。3戦3勝、朝日杯を勝ったスクラムダイナを筆頭に、シリウスシンボリ、ムダイナを筆頭に、シリウスシンボリ、

滝沢 ミナガワマンナが1戦1勝だけ、やはり58歳。柴田 57歳のメンバーをあげてみたい。岡部 キョウエイレア。それとトウシヨウベガサス。毎日王冠、天皇賞の内容を見ても57歳が妥当だろう。岩沢 重賞をふたつ勝っているハヤテミグ。朝日 そして牝馬のロンググレイス。小林 56歳以下の馬については表を参考にしていただきたい。サクラサニオー、サクラユタカオーなど、いずれも将来性のある馬だと思う。岡部 筆頭は朝日杯の勝ち馬スクラムダイナ。55歳はこの一頭でいいだろう。自在なレースができる。小林 54歳にはシリウスシンボリ、エルプス、ダイナシュートと有力馬が目白押しだ。シリウスシンボリは府中3歳ステークス、エルプスは函館3歳ス

テークス、3歳牝馬ステークス。ダイナシュートは新潟3歳ステークス、京成杯3歳ステークスを勝っている。ここの特色はモガミ、デイクタス、タゴワイニスなど新種牡馬の産駒の成績がいい。甲佐 関西では3戦3勝、京都、阪神の3歳ステークスを勝っているダイゴトツゲキを54歳に置いて、ニホンピロビッキー、タニノブリークなど牝馬が53歳で続く。ニホンピロビッキーは3歳牝馬ステークス、タニノブリークはデイリー杯3歳ステークスを勝っている。岩片 函館3歳ステークスでは出遅れて2着だったが、トウシヨウレオも53歳に評価したい。朝日 ニシノバルカンが阪神3歳ステークスで骨折し、レースに復帰できないのが惜しい。柴田 現時点の評価とは別に、ラッキオオカメ、マイテイロンなど将来が楽しめる馬だと思うが、52歳以下は表を参考にしていただきたい。

3 歳 馬 (西)

54
53

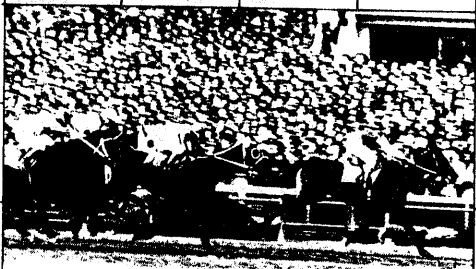
ダイゴトツゲキ (スボツキニシルーファニー)
 ※タニノブーケ (ノーザンディクテイターニタニノヒュールニス)
 トウショウレオ (シャートゲイニブルートウショウ)
 ⑤※ニホンピロビッキ (トウショウボーイニキャスター)
 ※ダイナシュペール (ノーザンテーストニカレンターメイド)
 ⑥※ニシノバルカン (ホウシュウエイトニフェアウインター)
 ⑦※パトリオット (ボールドラッドニスナークスキー)
 バンブーアステア (ナイスダンサーニワカナバンブー)
 マルヨブラード (ウイロウィックニヨシノシルビア)
 ⑧※ライフタテヤマ (ハイセイコーニチェリータテヤマ)
 ⑨※ラッキーオカメ (トウショウボーイニロングアッシュ)
 ※イブキバレリーナ (ノーザンテーストニシャダイホープ)
 イブキマスター (オンリーフォアラフニテンプレシブー)
 エーコースペイン (フィリップオブスニマソファル)
 グリーンアラシ (ネプテュヌスニファラローノク)
 セントシーザー (モバリッツニワイエスシージー)
 ハードドラマ (ハーディカヌートニファインドラマ)
 ファンシーストーム (ラッキーノブリンニゲンカイクイン)
 ⑩※フシミイチジョウ (プレイヴェストローマンニヨドワジ)
 マイティロン (マイスワローニブリティキャスト)
 マヤノファイター (リマンドニマザークランド)
 ※ユーショウスワロー (マイスワローニオープンチェリー)
 アグネスビート (ノーザンディクテイターニクラウンシャート)
 ⑪※アルファローズ (ハイセイコーニフジノシャーク)
 ※イシダワイルド (ファバージニロックターキ)
 ⑫※イブキカネール (ハシコトキニカネジョリー)
 ⑬※エビスゴードン (レシブトンコートニアストエビス)
 ⑭※カゲシマホマレ (カネミノブニデイトクホマレ)
 カルストンノーザン (ノーザンアンサーニベターセリーヴ)
 キタヤマジョージ (ミルジョージニサンビタリア)
 ⑮※ゴットリバー (タケシノオニクインタテヤマ)
 サイキョウニシキ (ターコワイスニビュクヤ)
 ⑯※サーティーファイブ (インターメゾニカサンローズ)
 ※チクシスワロー (スイフトスワローニアポロオーダー)
 ⑰※トウカイスコール (トウショウボーイニクライラナ)
 ネイティブナムラ (ダンサーズイメージニマドモアゼルナムラ)
 ノーティツビー (ハードウビーニボニーノワイアン)
 ハギノダンディー (サンプリンスニミルノアール)
 バンブーケーン (ジョンティオンブルニシニアライト)
 ハードワーカー (サティンゴニファインカオリ)
 ⑱※ヒサゴサクラ (ベールニノボルクイン)
 フミノマーチ (ステイラートニフミノワカバ)
 ⑲※ポールホーラー (タイテエムニプロントモア)
 ※マチカネアスカ (キーンソロンニスイートルナ)
 マルシゲロイヤル (ロイヤルスキーニセンターダンス)
 ミチノヒバリ (ターコワイスニニノボラン)
 ヤクモデザイヤー (リマンドニヤクモセダン)
 ユニバーサルダイナ (ノーザンテーストニリンデンプリンセス)
 ランドヒリュウ (プレイヴェストローマンニナッシングナムラ)
 レオナルドシチー (イエローゴッドニオンワードレコ)
 ワイドラッキー (ラッキーノブリンニウインゴルト)
 ※ワンダーヒロイン (ミルジョージニアチーブスター)

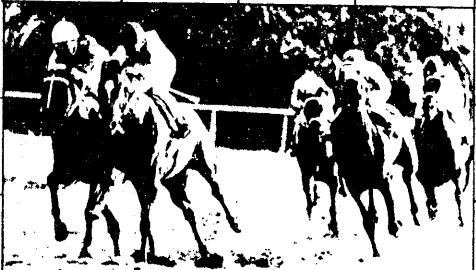
51

50

(計52頭)

1974年以降のフリーハンデ上位馬

フリーハンデ	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
67											シンボリルドルフ
66											
65										父ミスターシービー	
64	キタノカチドキ										
63		カブラヤオー	トウショウボーイ								
62	コーネルランサー	イシノアラシ	クライムカイザー	プレストウコウ ラッキールーラ	インターグシケン サクラショウリ	父カツラハイセイコ	オベックホース	カツトップユース	ハンブーアトラス		
61		コクサイプリンス	グリーングラス テンポイント	ハードバージ ⑩マルゼンスキー		ハジメノミット ピンゴガルー	ノースガスト ハワイアンイメージ モンテプリンス	サンエイソロン ⑩ミナガワマンナ	アズマハンター ホリスキー	リードホーユー	
60		※テスコガビー		※インターグロリア	ファンタスト	ネーハイジェット	※ハギノッパルティ		⑧サルノキング ⑨ハギノカムイオー ⑪ビクトリアクラウン ⑫ホスビタリテイ ワカテンザン	マジロモンズニー	ビゼンニシキ

フリーハンデ	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
67											
66											⑧カツラギエース
65				テンポイント							
64	タニノチカラ			トウショウボーイ					モンテプリンス		⑩ミスターシービー
63			フジノハース					ホウヨウボーイ	⑧ヒカリデュール	アンバーシャダイ キョウエイプロミス	
62	タケホープ	フジノハース	アイフル エリモジョージ	グリーングラス ホクトボーイ	エリモジョージ カネミノブ グリーングラス	グリーングラス サクラショウリ		⑧カツラハイセイコ	アンバーシャダイ ⑩マジロティターン		ニホンピロウイナー
61	カミノデシオ ⑧ハイセイコー	イチフジイサミ キクノオー タニノチカラ	カブラヤオー	アイフル ヤマブキオー	テンメイ	カシュウチカラ スリージャイアンツ	カネミノブ ニチドウタロー ホウヨウボーイ	アンバーシャダイ		⑧ヒカリデュール	モンテファスト
60		カーネルシンボリ キタノカチドキ ナオキ	ヤマブキオー ロングホーク		※インターグロリア カシュウチカラ プレストウコウ	シービークロス マジロファントム	父カツラハイセイコ ※プリティキャスト	⑧カツアル モンテプリンス	⑧カズシゲ サジエイソロン	⑨ハギノカムイオー ホリスキー ⑩ミナガワマンナ	ハッピープログレス